

平成22年度 県立土浦第一高等学校（全日制）自己評価表

【別紙様式2】

No. 1

目指す学校像	豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、もって社会の発展に貢献し得る人間の育成を目指す。 教職員の間で共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実践する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
授業重視の原則を貫き、高い目標に向けて主体的に学習を継続させることに学校全体で取り組んだ結果、大きな成果を上げることができた。より高いレベルで生徒が自ら学び、授業を重視する姿勢を身につけるためには、組織的に指導法の改善に取り組む必要がある。 部活動、学校行事等に積極的に参加し、様々な体験を積むことの意義を多くの生徒がよく理解し、人間として大きな成長を遂げることができた。 生徒理解を更に深め、生徒一人一人に個別に対応した指導も求められる。	教科の指導力をより向上させ、自主的・積極的な学習態度を育成する。	①授業の大切さを強く意識させ、授業に対する意欲を高める。 ②自ら学ぶ意欲を高めるとともに効果的な学習活動を促す。 ③指導法の研究を通年でを行い、指導力の向上を図る。	A	
	未来を見つめ、真摯な自己との向き合いを通して、自分の進路を自ら切り開いていく態度を育成する。	④各生徒が進路についての情報収集、将来の生き方、職業選択に関わる進路研究を積極的に行う態度を育成する。 ⑤個別面談等とおして生徒の自己理解を促し、高い目標設定とそのための継続的な努力を支援することで、一人一人の自己実現を目指す。	A	
	基本的な生活習慣の確立に努めると共に、学校行事や部活動等への積極的な参加を促し、豊かな人間性の涵養に努める。	⑥個別面談・教育相談を充実させ、生徒の悩みや課題の解決に向け支援する。 ⑦様々な活動に積極的に参加させ、協働する態度や自ら考え、責任ある行動がとれる態度を養う。 ⑧自らの生活を自ら律することの出来る態度を育成する。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度学期への主な課題
教務部	各教科の学習指導の充実を支援する。	時間割を円滑に運用し、授業補填率100%を続けて、授業時間を確保する。	① A	・問題検討会の内容を更に充実させる必要がある。 ・教育課程について更に意見の調整を図り、本校にふさわしい教育課程の策定をすすめる。
		生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、学校行事等を効果的・計画的に実施する。	② A	
		定期考査等の問題検討会を推進する。	③ B	
	新学習指導要領実施に向けて新しい教育課程作りを進める。	授業の相互参観を奨励し、指導力向上を支援する	③ B	
		本校の学習指導の在り方を確認し、教育課程作りに関する教員間の共通認識を図る。	①②③ A	
広報活動の充実を通し、教育活動の活性化を図る。	平成24年度教育課程案を作成する。	①③ B		
	平成25年度教育課程作りを進める。	①③ B		
庶務部	学校、家庭、地域社会との連携と協力体制の確立に努める。	生徒の生き生きとした姿が見える保護者・中学生対象学校説明会を実施する。	⑦ A	・県南高P連活動の事務局としての業務を遂行する。
		充実した教育活動の姿をホームページなどを通して公開する。	⑦ A	
	奨学制度の効果的活用を図る。	各学年後援会の活性化と、連携・協力体制の充実に努める。	④ B	
		各種PTA行事(後援会行事)への積極的な協力・参加を呼びかける。	④⑧ A	
人権教育室	学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。	PTA総会の出席者数の増加を図る。	⑧ A	
		奨学制度の有用的な情報提供に努める。	④ B	
	人権尊重の精神の涵養と民主的な人間関係を育成する	人権感覚や人権意識をはぐくむ人権教育の実践、特に、人権教育の観点にたった道徳やHR活動の実践を支援する。	⑦ B	・人権教育の観点に立ったHRや道徳の実践を支援するために、資料や研修の充実をはかる。
	教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、差別や偏見をもたない生徒を育成するために、職員研修を企画、実行する。	⑦ A		
	HR活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。	⑦ B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価	次年度学期)への主な課題
生徒指導部	学校の課題を明確にした指導体制の充実を図る。	生徒の実態把握に努める。	⑥ A	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の基本となる規範意識や人間関係、心とからだの健康、社会的自立や責任などについて、ホームルームのみならず学年や学校全体の生活の場でその意味と大切さを実感させる。 ・現在及び将来にわたり自己をよりよく導く力を高めていく教育活動や教育内容について検討する。 ・制服の着こなしについて更に改善を図る必要がある。
		共感的な態度での生徒への関わり方を更に工夫する。	⑤⑥ B	
	日常生活上の諸問題を生徒自らが解決する取り組みの充実を図る。	生徒が存在感や所属感を実感できるホームルームづくりを行う。	④ B	
		学校生活改善を目指した生徒の活動の活性化を図る。	⑦⑧ B	
	生徒の自立と社会の一員としての自覚を促す指導の充実を図る。	学校内外での規範意識を高揚する。	⑦⑧ B	
		学校内での生徒によるゴミの分別を徹底する。	⑦⑧ B	
		リサイクル運動への生徒の参加を促進する。	⑦⑧ B	
	生徒の声、保護者の声、地域の声を真剣に受け止め、連携・協力して問題を解決する体制づくりを図る。	教育相談体制を確立する。	⑤⑥ B	
		保護者が気軽に相談や情報交換ができる場や機会を設定する。	⑤⑥ B	
		地域の声を受け止め、それを校内で検討する体制を確立する。	⑧ B	
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教育を充実させる。 ・日常の生活を大事にする。 ・人間としての基礎・基本を磨き鍛える。 	「マナーアップ」運動を推進する。	⑥⑦⑧ A		
	「社会のルールを守る」「あいさつをする」「思いやりの心をもつ」態度を徹底する。	⑥⑦⑧ B		
生徒の発達段階に応じた、望ましい集団活動の意義の明確化と自発的な活動の充実を図る。	集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育成する。	⑦⑧ B		
	生徒の発想や創意を生かした生徒の活動への支援を工夫する。	⑤⑦ A		
	学校生活の充実や改善向上を図る生徒会活動となるための支援を工夫する。	⑥⑦⑧ B		
	生徒自らが企画・運営する学校行事への支援を工夫する。	⑥⑦⑧ A		
	運動部・文化部等の更なる活性化、充実化に努める。	⑦ A		
教育相談部	教育相談体制を確立する。	教育相談室の広報につとめ、生徒や保護者が相談しやすい体制を整える。	⑤⑥ B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者がより相談しやすい場となるよう体制や環境を整える。
		昼休みや放課後に教育相談室に待機して生徒や保護者の相談に応じる	⑤⑥ B	
		各学年・各校務分掌等と連携し、学校への不適応が見られる生徒の支援にあたる。	⑥ B	
		教員のスキルアップを図るため、教育相談の図書や情報を提供する。	⑤⑥ A	
保健部	安全で衛生的な学習環境の実現に協働する。	防災計画を作成し、安全確保のための訓練等に、積極的に協働する。	⑦ B	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を中心に校内の環境美化を図る。 ・文化財の防火訓練について、生徒に対する意義説明を徹底する。
		清掃計画を作成し、学習環境が衛生的に保たれるよう、分担区清掃を責任を持って果たさせる。	⑦ B	
	生徒の自己実現に向けて、健康管理を支援する。	校内の環境を安全に保つことを指導するだけでなく、定期的に安全点検を行い、安心して生活できる環境を整える。	⑦⑧ B	
		検診機関等が行う活動の準備、実施、事後措置に対し協力、指導する。	⑤ A	
進路指導	授業を軸に自ら学び考える学習を行えるようにする。	指導力を高める研修会の設定や情報発信を行う。	①②③ A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点に立ち、生徒への具体的な支援を強化する。 ・進路通信をタイムリーに発行し、内容を充実させる。
		学年と連携して生徒の家庭学習実態を把握し、担任が効果的な個別指導ができるよう支援する。	①②③ A	
		授業のレベルや考査の精度を高めるため、外部の研究会等の案内や参加者の調整を行う。	③ A	
	進路指導の内容を充実させ、生徒が志高く自らの進適切な進路情報の提供に努め、生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	将来の生き方や生活、進路や職業について考えさせる学年ごとの行事への積極的な支援をする。	④⑤⑧ B	
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書等を充実させ、進路室で閲覧させる。	④⑤ B	
		生徒が志望校を考える資料として、進学要覧・合格体験記を作成し、生徒に配布する。	④⑤ A	
4月の学年後援会総会、7・12月の保護者面談の際、学年に応じた適切な進路情報を提供する。	⑤ A			
必要に応じて進路通信を発行し、生徒と保護者の進路面での共通の話題を提供する。	⑤ C			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
図書部	教育課程の展開に対応した資料を充実させる	各教科を対象に購入希望図書の調査をする。	②④ B	・教科指導と連携した図書館の利用を検討する。	
	読書、作文、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	蔵書を効率的に利用できるよう、計画的に蔵書の整理整頓に進める。	②④⑦ B		
		図書委員を通して生徒からリクエストを募る。	②⑦ B		
		自主学習のために来館する生徒の読書意欲を喚起する展示を工夫する。	⑦ B		
	授業および自主学習のための快適な場を提供する。	利用マナーの遵守を指導する。	②⑧ A		B
		図書館・視聴覚室の美化および環境整備に努める。	② A		
課外授業および視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。		① A			
	自主学習の習慣の確立を支援する教科指導の場として、通常の開館時間外に図書館を開放する。	②⑧ A			
コンピュータ室	情報教育の環境を整備する	CAI教室などの活用をはかるため、補修、点検などを定期的に行う。	①④ B	・生徒指導部と連携して情報モラルについて啓発する。	
	情報モラルに関する意識	授業などで情報モラル教育を推進するための資料の提供を行う。	⑧ B		
学習館	学習する場を提供し、自学自習に努めさせる。	生徒に自学自習の場を提供するために開放時間を延長するなど学習館の開放に努める。	②⑧ A	・学習館の利用をより一層促進する。	
	各部・各学年と連携し、学習館の利用を促進する。	3年を中心に学習しやすい環境に努める。	②⑧ A		
		教務部・生徒指導部などと連携し、学習館の利用を効率的に行う。	② A		
第1学年	中学生から高校生へと早期転換への支援を行う。	3年間を見通した学習や学校生活の実現についての入門合宿を入学後実施する。	①②⑧ A	・中心学年として、部活や学校行事におけるリーダーシップ育成をさらに進める。 ・計画的で主体的な学習ができるよう指導する。 ・精神面の強い生徒を育成する。	
		生活の実態調査年3回、生徒面談を年3回以上実施し、生徒理解に努める。	⑤⑦⑧ A		
		「道徳」の通年学習において自己の道徳感や考え方の表現力と実践力を養う。また、日本語による表現力他に英語による表現力も重視する。	⑦⑧ B		
	自己実現を図るための基礎 学力の向上に努める。	「自立探求型」学習の大切さを理解させるとともに、常に自己の目標を意識させる。	②⑤ B		A
		家庭学習の習慣をつけるため、予習→授業→復習の学習法を徹底する。	③ A		
		週1回の学年会を実施し、生徒の学習状況、生活態度等について協議する。	②⑥ A		
		進路講演会、学年集会によって生徒の学習へのモチベーションを高める。	③④ A		
	社会のリーダーとして活躍できるよう「適切な職業観」を育成する。	「総合的な学習」の中で各種の講演や社会体験を経験させることにより広い視野を養う。	③④ A		A
		各種学年行事においては生徒の委員会を組織し生徒中心に取り組みさせる。	③④ A		
		授業の大切さを理解し実践させ、将来の夢の実現のために幅広い知識と教養を身につけさせる。	①②④ A		
第2学年	自律した生活習慣の確立を目指して、規範意識と強い精神力を養う。	学業と部活動・各種委員会活動とのバランスを意識し、ふさわしい生活態度を身につけさせる。	④⑧ B	・高校生活総決算として部活動及び一高祭に全力投球させる。 ・第一志望へのこだわりを持たせ、授業第一主義の下、生徒の実態を把握しながら、現役合格を目指す。	
		年4回の個別面談を通して、一人一人の問題の早期解決を図り、適切なアドバイスを行う。	③⑤⑥ A		
		校外の学年行事等を活用して、集団規範と社会のあり方を学ばせる。	④⑧ A		
	社会のリーダーになるべく、主体性・協調性を育む。	部活動、学校・学年行事等への積極的な参加を促す	⑦ A		A
		学校行事のリーダーとしての自覚を持たせ、生徒主体の行事運営を目指す。	⑦⑧ A		
		共同宿泊学習等の学年行事を通じて幅広い教養を身につけ、実行委員会組織中心の行事運営を図る	⑦⑧ A		
		予習→授業→復習という授業第一主義の学習法を徹底する。	①② B		
高い向上心をもって、自己適性を検討し、より高きを目指す姿勢を養う。	主体的に学習する意識を養い、自学自習できる生徒を育成する。	② B	A		
	進路講演会とOB・OGによる学部ガイダンスを実施し、高い目標設定を意識させる。	④ A			
	各種の大学・学部研究会やオープンキャンパスを利用し、進学意識の高揚をはかる。	④⑤ B			
	学業と部活動、各種委員会活動とのバランスを意識する。	④⑦⑧ A			
第3学年	自主的主体的に考え、自律ある生活習慣を確立する。	学校行事に主体的に参加し、広い視野を持ち問題意識の高いリーダーを育成する。	⑦⑧ A	・基本的な生活習慣をはじめ、服装・挨拶などは1年生のうちからしっかりと指導しておく必要がある。 ・授業の予習復習の大切さも、入学時からの継続した働きかけが大切である。 ・国公立大の優位性を進路指導上強く打ち出し、多科目主義の基盤を確立すべきである。	
		土浦一高生にふさわしい生活態度を身につけさせる。	⑧ B		
		効果的な授業のために予習復習を重視する。	①②③ B		
	一高の伝統である「授業を大切に」を継承する。	緊張感のある授業を維持する。	①②③ A		B
		安易に受験科目を絞ることなく、多種の科目をバランス良く積極的に学習する。	①④ B		
		面談を活用し、一人一人の抱える諸問題を早く解決する。	⑤⑥ A		
高い進学目標を掲げ、それを達成する。	放課後の教室、土曜・長期休業の学習館開放を通して、自学自習を重視する。	② A	A		
	国公立大を中心に各自に合った志望校を幅広く検討し、難関大学への進学研究に努める。	④⑤ A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価	次年度学期への主な課題
国語	基礎学力の確かな定着を図る。 発展的学習の向上を目指し、自ら学ぶ力の育成を図る。	予習・復習の徹底、小テスト・学習課題等によって、基礎学力の定着を図る。 ①②	A	A ・生徒の主体的取り組みを促すべく、より細やかに指導に当たる。 ・定期考査・模擬試験等の結果分析をさらに授業改善に反映させる。
		基礎学力の不十分な生徒に対して、個別に助言、指導に当たる。 ①②	A	
		問題集を精選し、学習課題とし、自学自習の姿勢を養う。 ①②	A	
	指導力の向上を図る。	特別講座等を実施し、発展的な学力の向上を図る。 ①②	A	
		生徒一人一人の進路希望に応じて助言、指導に当たる。 ①②	A	
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材、問題等を教科で協議し、学習指導に生かす。 ③	A	
	定期考査・模擬試験等の分析を行い、より一層指導技術の研鑽と授業の改善を図る。 ③	A		
	校外での研修等に参加し、指導力の向上を図る。 ③	A		
地歴	世界史を教えることによって、国際社会における日本人として高い志を持って学習に取り組む生徒の養成を図る。	世界史の通史だけではなくテーマ史的観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を身につけさせる。 ①②	A	A ・学習意欲に差が出ないように、教材、指導法の改善を図る。 ・基礎力を充実させるとともに、思考力を養成する指導方法を検討する。 ・定期考査・模擬試験等の結果を分析した上で授業改善を図る。
		世界各地の文化を学ばせることにより異なる文化や考え方を尊重する態度を育む工夫をする。 ①②	A	
		世界史においては、基礎的な力を身に付けさせ、3年次には論述対策を実施し、考える力を涵養する。 ①②	A	
	世界史的視野に立って我が国の歴史の展開を考察させるとともに、身近な地域社会の歴史にも関心を持たせる。	単なる知識の教授にならないよう心がけ、世界史的視野に立った歴史の流れに留意しつつわが国の歴史の授業を展開する。 ①②③	A	
		同時代史的に郷土史に触れ、生徒に関心を持たせ、郷土を理解し愛する心を育てる。 ①②③	B	
	現代世界で発生する種々の事象に対して、考える姿勢養うとともに地理的な見方・考え方の養成を図る。	日本史においても、基礎的な力を身に付けさせるとともに、論述対策を実施し、考える力を育てる。 ①②	A	
		系統的な学習を通して基本的な知識の定着を図り、地誌的な学習により現代世界を興味・関心を持って眺める態度を養う。 ②③	A	
		調査・作業などを通して地理的な技能を養う。 ②③	B	
	3年次では大学入試に対応した論理的な思考力を育成する。 ①②③	A		
公民	国際人としての自覚を養い、現代社会の諸問題に着目しながら課題解決できる姿勢と能力を養う。	現代社会の基礎的知識を身につけさせるとともに、現代社会に起こる具体的な事例を取り上げて、諸課題についての望ましい解決のあり方などを考察させる。 ①②③	A	A ・現代社会の課題に目を向けた上で、自分なりの解答を導き出すことができるよう指導の改善を図る。 ・基礎力を充実させるとともに、思考力を養成する指導方法を検討する。
		青年期における自己形成と人間としての在り方・生き方についての理解と思索を深めさせる。 ②④	B	
	政治・経済・国際関係などについて客観的に理解させる。	民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解させ、基礎的な知識を身に付けさせるとともにそれらに関する諸課題について主体的に考察させる。 ①②③	A	
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開する。	綿密な授業計画表を作成し、進度計画表を生徒に配布することで生徒の学習計画を促し、予復習を徹底させる。また、それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。 ①②③	A	A ・授業中心の学習計画や予習復習の大切さを意識させる。 ・問題演習の時間をより一層充実させ、思考力の向上を図る。 ・授業内容の定着度合いを更に高めるため、具体的方策を検討する。
		授業重視を徹底させる。日常の予習復習を徹底させる。 ①	A	
		授業中心の学習計画を立てさせ、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。 ①②③	A	
		科目担当者の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。 ①②	A	
		基本事項の理解を徹底させると共に、問題演習を十分に行う。 ①	A	
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。 ①②	A	
		3学年の生徒には、基本事項を整理し、発展的な応用力の養成と定着に努め、難関大学に合格できるための思考力を養う。 ②	A	
進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。 ②③	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度学期への主な課題
理科	自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探求心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫をする。あわせて、発展的な内容や話題について提供する。①②	A	新課程実施に備え、授業内容や進め方について検討精選をしていく。
		月1回程度の観察・実験を行い、観察・実験を積極的に取り組ませ、現象を見る目や探求心を養う。また、その考察を通して科学的能力を養う。外部講師による「科学実験講座」を実施し、発展的内容に触れさせことで科学的探求心を育てる。①②	B	
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。	授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げることにより科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育む。②	B	
	基礎学力を充実させ、3年においては、特に生徒の進路を考慮して応用力の養成を図る。	授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。学年・科目ごとに演習問題等を統一し、基礎学力を確実につける指導を行う。②③ 3学年の生徒には、基本事項を整理し発展的な応用力の養成と定着に努め、演習問題や試験の内容を工夫し、高いレベルの学力や思考力を育成する。①③	A B	
保健体育	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりを重視する意識を持たせる。	体育着の着方や管理、施設、用具の管理や整備についても高い意識を持って取り組ませる。①④⑧	B	・自ら用具管理や安全への配慮ができる態度の育成については、指導の工夫をする。 ・体育については、1、2年生において、集団を小規模化し、技能及び態度の定着を図る。 ・保健の課題学習について、更に高度な内容を目指した指導方法の改善を図る。
		集団種目を多く取り入れ、集団において仲間と協力して活動することの大切さを指導する。②⑦	A	
		周囲の者の健康状態を観察したり、危険を察知する態度を育成する。②④⑦	B	
		集団の特性に応じた、ゲームの工夫ができる能力や態度を育成する。①②	B	
		1年次の保健においては自分の身体への理解を深め、自己愛や思いやりにつながるよう指導する。①②④	A	
	運動を通して、困難なことに立ち向かう態度や能力を育成する。	2年次の保健においてはグループ研究、発表を実施し、共同で学習させる。①②⑦	A	
		克服的な種目を実施することで、チャレンジ精神を養い、達成感を味わわせる。①②⑦	A	
		苦手なことにも取り組みやすいように、態度の評価を重視する。③	A	
		準備体操とともに、体力向上のための運動を取り入れる。①②⑦	B	
		個人スキル向上のためのドリルを工夫し、よりよいゲーム運営につなげる。②③	B	
	体育的行事を、推進する。	運動・スポーツの習慣化が図れるよう、安全で楽しい計画、推進を行う。③④	A	
		自己の体力について評価し、健康への意識を高められるようアドバイスする。③④	A	
運動部員がクラスや行事においてもリーダーシップを発揮できるように、育成する。②⑦⑧		A		
運動・スポーツ活動における安全指導を充実させる。	健康観察を徹底する。③	A		
	健康、安全に関する自己管理能力を育成する。②④	B		
芸術	多様な表現活動を通じ、芸術表現・鑑賞の楽しさを味わわせ、鑑賞能力を養う。	授業における個別指導を充実させる。①	A	・互評会を通じて鑑賞指導の充実を図る。 ・鑑賞教材の精選と指導の充実を図る。
		指導計画に基づき、授業内容及び指導方法を創意工夫する。①②	B	
		・アンサンブルのグループ活動を通じ、表現の工夫・向上を図る。 ・発表する際、創作理由を説明することによって鑑賞者に制作意図を理解させ、発表能力及び、鑑賞能力の向上を図る。①②	A	
家庭	授業内容の充実を図る。自立に必要な生活技術の向上を図る。	授業内容を精選し、教材や指導方法の工夫と改善をする。①③	B	・実験実習等を取り入れ体験学習を多くする。
		視聴覚教材の利用、実験実習の回数を多く取り入れる。①③	A	
情報	指導計画の中で情報教育の明確な位置づけをする。発達段階に応じた情報活用能力を育成する。校内研修を充実させる。	発達段階に応じた計画的・発展的な位置づけを行う。②③	A	・生徒の情報活用能力差に応じた教育内容の充実を図る。 ・情報モラルに関する意識を更に高める。
		情報活用能力を育成するための指導の工夫に留意する。②	A	
		ワープロ、表計算ソフトの使用能力の高揚をはかる。②	A	
		コンピュータを活用した学習指導の在り方についての研修を行う。②	A	
		情報モラルに関する意識を高揚する。②	B	
		指導例、教育用コンテンツ等の教育情報を収集・提供する。②	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度学期)への主な課題
英語	英語科全体の目標 分かりやすい授業を展開し、実践的コミュニケーション能力を養う。	全体 ・教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある、分かりやすい授業を展開する。 ① ・英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。 ①	A A ①	A 1年 受動的な学習から主体的な学習への転換を早期にさせる。 2年 ALTをさらに活用し、エッセイライティングを始めとする「書く面でのコミュニケーション能力」をさらに伸ばさせる。 3年 個別指導などを通して、多様な個人の学力や目的に対応する指導を行う。
	第1学年の目標 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	第1学年の具体的方策 ・分かりやすい授業を展開し、自立した学習の援助をする。 ① ・語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。 ① ・英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。 ①② ・辞書指導の充実等によって、自立した学習力の育成を図る。 ①②	A A A A	
	第2学年の目標 第1学年で培った英語の基礎力をさらに伸ばさせ、確かな英語力を養う。	第2学年の具体的方策 ・第1学年で培った生徒の英語力を踏まえて、一人一人の生徒の学力を伸ばす授業を展開する。 ①② ・語彙力を確かなものにするテストを継続実施する。 ① ・正確でまとまりのある英文が書ける力を養えるような授業を展開する。 ① ・知的好奇心を刺激するようなサイドリーダーを選択・活用して、読解力の向上を図る。 ①②	A A A A	
	第3学年の目標 生徒の進路希望実現のために、難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	第3学年の具体的方策 ・大学入試問題を研究し、生徒の進路希望に即した考査を実施する。 ①② ・国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の指導を充実させる。 ① ・センター試験で各生徒の進路希望実現に必要な成果が出るように、直前対策を実施する。 ①	A A A	

5段階評価 A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった

